小淵沢・長坂お花見ウォークに参加して

塩川　晴久

この度、新会員になって初めてイベントに参加させていただきました。今まではオートバイが好きで、よく南アルプスの林道を二輪車にて走っていましたが、最近自分の足で歩くことの大切さを感じるようになり、週末になると10kmほど歩く機会が多くなりました。今回は15kmというコースでしたが、ほとんど疲れることもなく完歩する事が出来ました。特に感じたのは、やはり今まではオートバイにて山や川など自然の中を走ってきましたが、やはり運転に集中しなくてはならないため、どうしても足元に咲いている季節の草花や動物達にまで関心がいかなかったのが、歩くようになると自然と気づくようになり、新たな発見がたくさんあることに、とても新鮮さを感じました。天気はよかったのですが、八ヶ岳を眺めることができなかった事と、桜がまだ満開でなかったことがちょっと心残りですが、改めて自然の中を歩くことの素晴らしさを痛感いたしました。

いつもよりも楽に15kmという距離を感じたのは、やはり会員のみなさまと共に歩くことができたからでしょうか。本当に短く感じました。みなさま、元気で健康で頭が下がります。また、機会がありましたら参加させていただきたいと思います。

ありがとうございました。

あの人この人

芦澤　幹雄さん

毎月、会員の皆さんのお手元に届く歩こう会発行の新聞「みちしるべ」の印刷を手掛けていただいているのが会員でもある芦澤さんです。

芦澤さんは55才で印刷会社を退職、独立し印刷業を始めました。慣れないパソコンを独学で習得、版下製作から印刷まで全て独りでこなしました。印刷業を初めてほどなく、タクシードライバーの職にも着きました。その、タクシードライバーの職を63才で降りる前に遭った壮絶なタクシー強盗の話しを聞きしました。強盗に拉致され、死を覚悟したその時に何かに突き動かされる様に口をついて出た「南妙法蓮華経」。唱えたお経にひるんだ犯人からようやく解放されるも、その後、一ヶ月余の入院を余儀なくされるほどの怪我を負いました。

「命を拾い、この世に生かされ、必要とされている」芦澤さんはこの事件をきっかけに地域社会への活動に今まで以上に情熱を持って取り組んでいます。独身時代から人と人との繋がりを大切にし、青年団活動、ボーイスカウト活動、消防団活動など、様々な活動に取り組んできました。とりわけ「芝川郷土史研究会」は20代で出会った芝川町会議員の方の「今の若い者が地域の歴史や文化を後世に残さなければいけない！」その言葉をきっかけに会をスタートさせ、今も継続している長い歴史のある活動です。芝川地区の郷土史を学び、広く後世に残すために講師を迎えての講演会活動、案内板の設置、他市町村への研修勉強会、機関誌の発行など、会長として忙しい毎日を過ごしています。「拾った命をボランティア活動に生かしたい」。芝川地区郷土史勉強会の講師依頼があれば芦澤さん本人が講師を務めることもあり、その活躍の場は昨年芝川町が富士宮市と合併しより多くなったそうです。これからも益々ご活躍ください。

ご協力ありがとうございました。

事務局

あの、3月11日の東日本大震災から二ヶ月が過ぎました。
歩こう会では震災後すぐに義援金の募金箱を事務所に置きました。震災後、事務所にお立ち寄りいただいた方たちに募金をいただき、先月行われた「小淵沢・長坂お花見ウォーク」に参加された方たちにも募金をお願いし、ご賛同をいただきました。皆様のおかげで募金合計額は129,313円になりました。集められた募金は「富士宮歩こう会」として4月11日に「岳南朝日新聞社」に届けました。その後、募金は岳南朝日新聞社を通して日本赤十字社に送られます。皆さまのご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

くつのひもをといて

その65

山の遭難

GWの前半が終わった。心配していた山の遭難もすでに3件も起きている。白馬岳の大雪渓で起きた雪崩、鹿島槍ケ岳では天気の急変で雷が発生して落雷により意識不明の重体、八ツ岳連峰横岳では滑落し脚の骨を折る重傷で救助を要請、蝶ケ岳では頂上付近で意識不明の状態で登山者に発見され小屋に収容、さらに身近では富士山吉田口を登山中行方不明、家族からの届出で山梨県警が捜索を始めた。昨日（5月2日）までの新聞を見ただけでこれだけの遭難が起きている。

遭難の原因は色々あると思われるが、大抵の場合人間の不注意によることが多い。亡くなられた人には気の毒とは思うが、最近は山小屋にもテレビを置いてある所があるので天気図など描けなくとも予想は出来る。そんなに詳しくなくても天気の傾向は分かる。天気は良くなるのか悪くなるのか判断は出来る。自分で判断が出来なければ山小屋の主人に聞くことも一つの方法だ。若い人には聞かぬ方が良い。手伝いのアルバイターではその地方、その山特有の天気が分からないから・・・。あやふやな情報は事故の元である。年季の入った年寄りなら比較的頼りにして良い。下界では春たけなわであっても山では冬山。装備は冬山に合わせる。天気に恵まれれば、くそ重い冬の装備などと愚痴をこぼすこともあるが春山ではこれが普通。自然に対しては人間なんて所詮チッポケなものだから無理は禁物だ。天気が悪ければ良くなるまで待てばいいし、天気が悪いのにいつまでも高い所などに居ないでチャンスを見て降りてくれば良い。「山は遊び」と割り切って山に命を賭けることは無い。命さえあれば又登れるのだから山行に掛かった費用は勉強代と思えば良い。それ位余裕がなければ自然との付き合いは出来ないし、自然に愛想をつかされてしまう。

「山は遊びである」遊びに命を賭けるなど馬鹿の骨頂と悟るべきである。

6月の事務所の休業日

1日（水）5日（日）8日（水）15日（水）

19日（日）22日（水）29日（日）